

そ う ぜ ん じ 便 り

19 世 俊 諦 和 尚 筆

第 136 号

平成31年春彼岸号

臨 濟 宗 宗 禪 寺
建 長 寺 派

住 職 高 井 和 正
閑 栖 住 職 高 井 正 俊

羽村市川崎2-8-20
TEL 042-554-1276
FAX 042-578-3525

第21回 春の文化展

3月21日(木・祝)～24日(日)

10時～16時(最終日15時まで)

皆様に支えられて今回で二十一回目を迎えます。今回の特集は「はむら・アート展」と題し、地元羽村所縁・在住の芸術家の皆様の作品を一堂に展示致します。是非足をお運びいただき、我々の住んでいる地元の町で活躍している芸術家のお力を直接体感して下さい。

特別展示

「はむら・アート展」

イラスト／並木風磨氏・アクリル／島田敦子氏
日本画／上田泰徳氏・油彩／高橋隆助氏・水墨画／沖本登茂子氏
木工芸／五十嵐誠氏・油彩／雨倉 充氏

◆施茶 展示会期間中、会場内にてお抹茶をいただけます。

○春の彼岸早朝坐禅会。十八日～二十四まで。朝六時～七時です。清々しい朝の空気を全身感じます。どうぞご参加下さい。

○彼岸前に護持会・薬師講中の方々がお寺の境内と墓地の清掃をして下さいます。皆さんもお仏壇とお墓の美化をお願いします。

展 示

書道・絵画・造形・写真・折り紙・俳句・編み物
尺八・パッチワーク・篆刻・水墨画・山野草
陶芸・木彫等

花まつり

4月6日(土)～8日(月)

四月八日は仏教の開祖であるお釈迦様の誕生日です。春の麗らかなひと時と一緒に楽しみましょう。おでかけ下さい。

◆花供養

来山の皆様がお釈迦様に一本ずつ花を供えます。

◆花展

「花展」出品募集中!!

【出品して下さいの皆様】

- 草月流／吉田信子 社中 ●池坊流／加藤公子 社中
- 龍生派／橋本里子 社中 ●小原流／上田安子 社中
- フラワーデザイナー／天川紀香さん

4月8日 午後一時より

- ・御詠歌奉詠
- ・お釈迦様生誕法要―般若心経唱和
- ・住職の法話
- ・鳳友会「生田流箏ライブ」
- ・草月流上原瑞光先生「花活込み実演」

※期間中「甘茶」を用意しています。

節分豆まき会

二月三日に恒例の豆まき会を執り行いました。

鬼払いの起源は、元々中国に於いて旧暦十二月三十日に行われる「追儺（ついな）」という儀式が始まりです。古く隋の時代には春、秋、冬の季節の変わり目（節分）の三回行われていたようです。

日本でも宮中で執り行われていたそうですが、江戸時代頃には一般行事となりました。豆は魔滅の語呂からきている説があるそうです。新しい春を迎えて、今年一年の邪鬼を祓い、福を招く行事です。

宗禅寺の豆まきでは、来山いただいたすべてのお子様に本堂から豆を撒いていただいています。薬師堂ではお経をお読みして皆様の一年の健康を一緒に祈っています。

本年は日曜日に当たり、例年以上の大勢のご来山をいただきまして、誠に有り難いことです。ご来山頂いた皆様、朝からお手伝いいただきました総代さんや薬師講、サンガの会・坐禅会・写経の会の皆様に深く感謝を申し上げます。



赤鬼さん青鬼さんが町内に豆まきの告知へ。
鬼の面は新井達矢さん謹製



豆まきに参加してくれたお子様への参加賞のお菓子。
200個用意するも終わってみれば5個しか残りませんでした。



歳男歳女の皆様 袴つけてこれから豆まきです



今年は日曜日。大勢の皆様がご来山下りました。

坂本長利さん 「土佐源氏」 独演劇

二月十七日(日)に俳優坂本長利さんによる「土佐源氏」独演劇公演を行いました。

土佐源氏は民俗学者・宮本常一先生著『忘れられた日本人』に収められている話で、著者が昭和十六年、高知の梶原で出会った盲目の元馬喰(牛馬仲買人)から聞いた話しが元になっています。

八十九歳を迎えた俳優坂本長利さんが四十代の頃から独演を続け、磨きに研ぎ続けてきた演目で上演、宗禅寺は一二〇八回目でした。

私も正月五日に高円寺で行われた公演で観劇致しましたが、お寺での公演は演者との距離感が近く、素晴らしい演技をより堪能できたと感じております。

当日は二五〇名のご来山をいただき、皆様に味わっていただきました。お寺としては来年も開催したいと思っています。見逃した皆様は吉報をお待ち下さい。



エルムンド様にて打ち上げ
正俊和尚と坂本長利様



宗禅寺家族と一枚
左から照明・音響 袴田康裕さん 坂本長利様 マネージメント 仲村映美さん

宗禅寺第二駐車場が完成

お寺の裏側に第二駐車場ができました。地元檀信徒・雨倉利夫様よりお寺への土地の売却のお話をいただき、総代さんと相談した結果、お寺で買い取るようになりました。当面は全面、駐車場として利用させていただきます。入口が少々分かりづらいので、同じく檀信徒の雨倉正司様宅に看板を設置させていただけることになりました。

様々な行事の折に、度々路上駐車にてしのいで来ましたが、これで安心してお車を駐車することができそうです。福生側墓地にお墓を所有されている皆様にとっては、現在の駐車場より近い場所に車を停めることができるようになります。



第二駐車場は福生側墓地のとなりになります。
かなりの台数の駐車が可能です。



お寺の裏通りに入口がございます。



雨倉正司様のご協力をいただきまして
早速看板を設置致しました。

文庫長だより

島田 秀男

中里介山の名著『大菩薩峠』には、『英訳大菩薩峠』が発行されていることはあまり知られていません。

『英訳大菩薩峠』が発行されたのは、昭和四年一二月で翻訳者はイギリス人のC・S・バビヤです。発行所は、介山の著作物を多くてがけている春秋社という出版社です。

昭和四年は、介山が羽村に「大菩薩峠記念館」建設に着手しているころです。バビヤ氏は、春秋社の神田社長の紹介によるもので、拓殖大学や立正大学の教授をしていました。

『英訳大菩薩峠』が刊行されるにあたって、介山が発行していた「隣人之友」には、「バビヤ氏は、日本のことをよく理解し、柔道や剣道も学んでいるので、翻訳者としてふさわしい人物である。世界的に紹介されることは喜ばしいことである。」と書かれています。

英訳された『大菩薩峠』の序文を介山自ら執筆していることから、日頃から著作物を刊行することになり神経をつかっていた介山にとって、今回のことは好感を持って受け入れられたことと思います。

さて、『英訳大菩薩峠』を紹介したのは、日本語を英訳することまたその逆の場合も

ありますが、翻訳することについてお話ししたことからです。

たとえば、「こころ」という言葉を、私たちはさまざまな文章のなかで使用しています。しかし、「こころ」を英語に置き換えるとすれば「ハート」「スピリット」「マインド」などの表記があてはまりそうですが、どれもぴたりくるものがないそうです。

文芸評論家の小林秀雄は、東京大学の仏文科を卒業し、文化勲章も受章されたたいへん著名な人でした。小林秀雄は、『狭き門』などで知られるフランスの文学者ジッドに精通していましたが、昭和のはじめごろジッドの本を翻訳していたとき、どうしてもわからない単語がでてきて本文に注をつけて、その単語をでたために訳しましたと正直に書いたのです。今のように『仏和大辞典』もなかった当時としてはしかたがなかったことですが、それだけ翻訳することとはむずかしいことなのです。

正確な翻訳とは何かということについて気になっていたところ、今年の大学入試センターの国語問題に沼野充義「翻訳をめぐる七つの非現実的な断章」が出題されていました。

沼野氏は、翻訳とは「近似的な「言い換え」である」から、「同じような状況のもとで、日本人ならどう言うのが一番自然か、考えることだ。翻訳といえども、日本語で

ある以上は、日本語として自然なものではないければならない。」とし、「いかに「こなれた」訳文にするかが、翻訳家の腕の見せ所」となっていて、世間もそれを高く評価する傾向にあるといっています。しかし、自然な日本語に訳することによって、原文のもつ独特のニュアンスをそこなわれてしまうのではないか。また、ある言葉に対応する表現が、日本語のなかにあるとは限らないから原文に忠実に訳すべきではないのかという考えも一方にあり、この問題はないと述べています。

沼野氏は、翻訳することは「まったく違った文化的背景の中で、まったく違った言語によって書かれた文学作品を、別の言語に訳して、それが magari なりにも理解されることじたい、よく考えてみると、何か奇跡のようなことではないか」ともいっています。

さて、『英訳大菩薩峠』は、いかに外国の人にうけとめられたのでしょうか。

《参考図書》

『隣人之友』第三五号

昭和四年八月一日発行
二宮正之『小林秀雄のこと』岩波現代文庫

二〇一八年一二月一四日発行

年忌にあたる御霊位

本年四月から八月に節目の年忌を迎える皆様です。ご法要のお申込みはお電話でも大丈夫です。ご不明な点もお気軽に寺にご相談下さい。ご都合でご法要をなさらない場合には、お塔婆を建てての墓参供養もございませう。ご家族皆様で真心を形に表しましょう。

◆年忌霊位（四月から八月まで）

一周忌 平成三十年御逝去

御命日 故人御芳名(敬称略)

四月	三月	秋山 寿々
四月	十一月	小林 ウメ
四月	十一月	平井 忠
四月	十一月	武田義一郎
五月	十一月	大野 淳子
六月	九月	石川喜久枝
六月	二十四日	出山 淳一
六月	二十五日	中根 タケ
六月	二十八日	秋山 悦江
六月	三十日	中村シズ江
七月	三日	山田 朝子
七月	六日	伊東 長吉
七月	九日	船木シメ子
七月	二十一日	原島 精次
七月	二十四日	土屋 幸江
七月	二十八日	山内 之夫
八月	上旬	小島 キヨ
八月	六日	為ヶ谷喜美
八月	十二日	高橋 和代
八月	二十二日	秋澤 良江
八月	二十六日	水上二三夫

三回忌 平成二十九年御逝去

五月	四日	上田 彌生
----	----	-------

七回忌 平成二十五年御逝去

五月	六日	田邊 フミ
五月	十九日	浮田 征治
五月	二十日	田村 初枝
六月	七日	下田 ミヤ
六月	二十一日	高崎キヨ子
六月	二十三日	中野 芳夫
七月	六日	高橋 直子
七月	九日	島田 睦男
七月	十四日	齊藤ヒサエ
七月	二十七日	水村 喜代
八月	八日	関矢 義之
八月	十七日	島田 しづ
八月	二十二日	石角作之丞

七月	十九日	大野源之助
六月	二十五日	佐藤勝治郎
六月	十八日	大野源之助
五月	二十八日	猪俣スエ子
五月	二十六日	松澤 孝次
五月	二十六日	中野 久子
五月	二十二日	雨宮正次郎
四月	十八日	細瀬 茂雄
四月	十六日	山口 照子
四月	十日	北田 文司

大野源之助	佐藤勝治郎	大野源之助	猪俣スエ子	松澤 孝次	中野 久子	雨宮正次郎	細瀬 茂雄	山口 照子	北田 文司	田邊 フミ	浮田 征治	田村 初枝	下田 ミヤ	高崎キヨ子	中野 芳夫	高橋 直子	島田 睦男	齊藤ヒサエ	水村 喜代	関矢 義之	島田 しづ	石角作之丞
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

十三回忌 平成十九年御逝去

七月	二十一日	藤野 安隆
八月	一日	平井 巳芳
八月	十三日	中野 龍男
八月	十三日	中野 末男

十七回忌 平成十五年御逝去

四月	二日	中野モト子
四月	二十一日	鈴木 シゲ
五月	八日	坂巻 シゲ
五月	十一日	中野 利久
六月	七日	中根喜七郎
六月	二十四日	島田 茂夫
七月	二十二日	中根 怜子
八月	七日	島田 弥一

二十三回忌 平成九年御逝去

四月	二十七日	池下 羊
四月	三十日	齊木家
五月	十六日	秋澤熊五郎
五月	二十五日	太田 松枝
五月	三十一日	古川 サダ
六月	五日	真中 宏
六月	七日	石川マサ子

六月	七日	石川マサ子
----	----	-------

二十七回忌 平成五年御逝去

四月	十四日	島田 弥一
四月	二十六日	野村龍之介
五月	十九日	渡辺 シモ
五月	二十九日	田村 茂芳
六月	三日	神藤 七郎
六月	十四日	島田家
六月	二十七日	島田 カツ
六月	三十日	本坊 糸枝
七月	二十七日	柿崎永美子
八月	十七日	鈴木 紀騎

三十三回忌 昭和六十二年御逝去

四月	二十九日	新井 壮夫
五月	二十九日	島田 三三
六月	十二日	中野 ヒロ
六月	十二日	中野 シゲ
六月	十九日	平井 富稔
七月	二日	水上 清
七月	四日	薩美 昭治
七月	十二日	青木 清
八月	六日	南雲チカエ
八月	十七日	井上 要
八月	十七日	佐藤 ハル
八月	二十九日	秋山 梅子

六月	二十八日	中野 精吾
六月	三十日	木島ミサ子
七月	十一日	木崎 倉造
七月	十五日	秋山家
七月	十五日	雨倉喜三郎
七月	十七日	中村 忠一
七月	十七日	波田野 實
七月	三十日	下田 之保
八月	一日	佐久間史衛
八月	六日	中野家
八月	十七日	末永 薫

和正和尚日單

○谷中 新年恒例の山崎家親族新年会。老若男女三十名集まる。 1/2

○三島龍澤寺 松華室老師に新年のご挨拶。大般若祈禱法要にて読経。 1/3

○お年始 総代さんにお年始。 1/4

○高円寺 二月に公演していただく「土佐源氏」の舞台を綾子さんと観劇。会場は満員。公演後、坂本さんに楽屋でご挨拶。 1/5

○宗禅寺 寺総代さんとの新年会。総代さんと御本尊様、檀信徒各家に供養諷経。 1/6

○宗禅寺 葉師堂裏の駐車場が「境内地」に。よかった。 1/7

○越後湯沢 妻と娘と雪国へ。雪遊び、ソリ遊び。 1/8〜9

○消防 晩に出初式の準備 1/10

○写経会 今年も写経会始まりました 1/11

○坐禅会 坐禅会始め。十七名 1/12

○消防 一中にて消防団出初式 1/13

○葉師講 役員さんと新年会。本年の行事、節分の打ち合わせ。 1/14

○土曜講座 中村修さんの花づくりのお話しとマスターハムランこと大野光義さんのマジックショー。修さんから貴重な資料をいただく。私は馬祖禅。平常是道。 1/19

○日野・萬福寺 高野宗忠住職突然のご逝去。密葬通夜に父と参列 1/20

○寺子屋委員会 中野喜一さん執筆の戦争時のコラムを読む。新年会 1/21

○福生・清岩院 西東京臨済会幹事会。新年総会の資料確認。今年は役員改選。三月十一日の托鉢も。 1/22

○書初め 毎月宗禅寺で和尚による書道練習会があります。新年は恒例の書初め。 1/23

○法要 檀家外の方の四十九日法要をお寺で。檀信徒以外の皆様の御供養もお受けしております。 1/30

○消防 晩に市内広報へ 1/30

○節分お札 封筒の宛名とお札の芳名入れがようやく完了。まだまだ字は下手くそで申し訳ない。 2/1

○文化展 第一回実行委員会。今年の特集は羽村所縁の芸術家の皆様。 2/2

○節分豆まき 日曜日ということもあり、駐車場が満車。多数の御来山をいただきありがとうございます。子供用のお菓子を二〇〇用意したが、残ったのは五つのみ。 2/3

○土曜講座 宗禅寺涅槃会。長野県長谷寺の奥様岡澤恭子先生による「涅槃図の絵解き」。絵解きは紙芝居の原型。情緒たっぷりの語り口に皆引き込まれる。みんなで御詠歌。 2/9

○西東京臨済会 昭島で新年総会。役員改選。 2/11

○福生・清岩院 西東京幹事会。新年総会の議事を通った書類を会員和尚様に発送。三月十一日托鉢案内状も。 2/12

○都内 「土佐源氏」用の舞台照明をリース。配送不可とのことで現地に取りにかがう。両親のお顔を拝むため谷中に立ち寄る。 2/15

○土佐源氏 午後から舞台準備。坂本さん、音響袴田さん、映美さんと本堂で支度。照明・音響心配だったが、大丈夫そ

うで安心。

2/16

○土佐源氏 坂本長利さん独演劇「土佐源氏」公演。来場二百五十名。一言一句を聞き逃さないようにと、会場中が静かに演技に見入った。また来年もお願いしたい・・・

○東新商会 本堂・庫裡などの消防設備の点検。異常なし。

○消防 動物園駐車場にて車両と可搬ポンプ繋げて送水訓練。

○文化展 第二回実行委員会。看板の原案など目を通す。

○鎌倉・東慶寺で横田南嶺老師の「仏光録」拜聴。建長寺泊。

○建長寺にて回春院、西澤拓道和尚（妹、久仁子の長男）転版式に出席

○宗禅寺土曜坐禅会 二六人。建長寺カレンダーの包装。十五分で終了

○今日の法事から「入山心得」読む 12/16

○待望の「飛鳥Ⅱ」に乗ってみる。名古屋から横浜へ淑子さんと 12/17・18

○藤沢で未来連福プロジェクトの忘年会に参加させていただく。 12/21

正俊閑栖日記

年が明けて節分には六百近い善男善女の方々の参加。「土佐源氏」には、二五〇人の観劇をいただき、ありがたい限りです。土曜講座を始め、檀家さんはいうまでもなく、広く皆様方のご来山をお待ちしています。

○東京湯島 麟祥院にて小川隆先生の「臨濟録」講義拝聴。

○西東京臨済会災害支援部の主催で、福島原発の構内を視察。バスで説明を受けながら、ゆっくりと。

○鎌倉・東慶寺で横田南嶺老師の「仏光録」拜聴。建長寺泊。

○建長寺にて回春院、西澤拓道和尚（妹、久仁子の長男）転版式に出席

○宗禅寺土曜坐禅会 二六人。建長寺カレンダーの包装。十五分で終了

○今日の法事から「入山心得」読む 12/16

○待望の「飛鳥Ⅱ」に乗ってみる。名古屋から横浜へ淑子さんと 12/17・18

○藤沢で未来連福プロジェクトの忘年会に参加させていただく。 12/21

○護持会歳末清掃 丁寧にして下さる。うどの接待。四時から宗禅寺冬夜忘年会。坐禅会、写経会、四十三人。始めに講談「玉川上水物語」（菊地洋子）、笛（高崎洋子）。

○宗禅寺裏の土地を買い取る。

○銀座でいつめんの会忘年会

○中里さん、お地藏様の帽子と前掛け新調して、かけて下さる。

○宗禅寺総代さん方に歳末のご挨拶。 12/29

○大晦日、除夜の鐘。牧野電気屋さん、薬師講の方々、準備。十一時四十五分より打ち始め。絵馬・甘酒・ドラム缶焚火の進呈。薬師講の方、年越しそばを召し上がって帰る。二時完全撤収。ほぼ五百人の方の来山。風もない良い日 12/31

○十二月の来山者一六八人でした。昨年一年間の来山の方の合計は二万九百四十五人でした。多くの方に御縁をいただき、ありがたいです。お寺が何をおかえしできるか。頑張ります。

○宗禅寺総代さん方にお年始。檀信徒の方々には失礼ながら郵送。

○総代さん方、年始に来て下さる 1/6

○宗禅寺薬師堂西駐車場、境内地に 1/7

閑栖和尚のひと言

葬儀のことで気になることがあります。家族葬という快い言葉がありますが、亡くなられた方は生きています。多くの人との関わりがありました。亡くなる時にも、関わった方々とお別れをして、あの世に送ってあげませんか。家族だけでというのは、家族だけの都合のような気がします。普通のお葬式をしましょう。

- 鎌倉へ、建長寺半僧坊・正統院・天源院等の写真撮影。 1/8
- 写経会始まる二十人。禅センターで健康体操。毎週金曜日開催。十四人 1/11
- 朝粥坐禅会 六時から。十三人 1/13
- 薬師講役員新年会 十八人。 1/14
- 鎌倉禅研究会 円覚寺にて。横田南嶺管長・小川隆先生。百人の参加。 1/17
- 宗禅寺土曜講座 中村修さん。大野光義さん。七十人の参加。 1/19
- 日野萬福寺 高野宗忠和尚葬儀へ。七十二歳。私とは長年の道友。 1/21
- 福生青年会議所 歴代理事長会新年会へ。昭島・車屋 1/22
- 坐禅会二十二人。大坂なおみ全豪オープン優勝 1/26
- 青梅・魚双の井上夫妻来山。 1/27
- 東京湯島で中外日報よりコピーもらう。 1/28
- うどん教室十三人。一人で留守番 1/29
- 淑子さん、建長寺の賦課金の調査を終了。大仕事でした。 1/30
- ◎一月の来山者は一四七七人でした。
- 和正和尚、節分の札作り、懸命。 2/1
- 写経会二十人。健康体操十六人。 2/1
- 文化展会議に二十三人来山。 2/2
- 宗禅寺節分 日曜日の好天もあり、子供達二百人、合計六百人の参加。薬師講サングの会坐禅会・写経会の方の手伝いと運営。皆さんいい福をもらって帰られました。歳取りの宴、七十人。いい一年が始まります。 2/3
- 横須賀市民大学で「禅宗の祖師像」講義。夕方、鎌倉・岸ホテル訪問。 2/5
- 宗禅寺裏・北側 第二駐車場とする。鈴木土建に準備依頼。 2/6
- 八王子仏教会、涅槃会の集い、橋本五郎氏の講演を拜聴。元氣いただく。 2/7
- 宗禅寺土曜講座 岡澤恭子さんのお釈迦様涅槃図のお絵解き。しみりとありがたかった。御詠歌奉詠。来年も二月八日においでいただく。 2/9
- 森美術館で「北斎展」超満員。 2/10
- 第二駐車場完成。お施餓鬼等、前の駐車場が一杯の時、お使いください。夕方から西東京臨済会、新年総会車屋 2/11
- 甲府市、塩沢寺厄除地藏尊大祭 2/13
- 鎌倉・東慶寺「鎌禅会」横田南嶺老師の無学祖元「仏光録」拜聴。東京駅で彭丹さんと「蘭溪録」出版相談。 2/14
- 田村酒造会議場で福生稲門会講話。坐禅会、和尚二人とも欠席すみません。 2/16
- 長徳寺山下光一さんの葬儀役僧 2/17
- 「土佐源氏」坂本長利さん独演劇。本堂、真つ暗の中、ローソク一本の独演。二百五十人の観客。圧倒されて聴き入り、見入る。エルムンドで打ち上げ。また、公演していただきたい。 2/17
- 東博「顔真卿」超満員で常設展を見る。夕方、建長寺鎌倉塾。鎌田恭幸さんのお話と懇談。塩之内内科にも。 2/19
- 日野萬福寺高野宗忠和尚津送。 2/20
- 鎌倉禅研究会 鈴木佐さん應供堂満員七人。終わって開山堂案内。 2/21
- 青梅総合病院 北村喜道和尚見舞い 2/22
- 久しぶりに法事三軒させていただく。三時より花祭り打合せ 2/23
- 京都・建仁寺問候。素堂忌。 2/24
- 湯島・麟祥院 小川先生臨済録 2/25
- 鎌倉禅研究会 土曜講座の講師依頼準備始める。 2/26
- ◎節分・土佐源氏もあり二月の来山者は千八百十八人でした。ありがたいです。

宗禅寺涅槃会（ねはんえ）

涅槃図の絵解き

去る二月九日（土）に土曜講座として涅槃会を行いました。二月十五日がお釈迦様のご命日にあたり、日本全国の寺院にてお釈迦様の遺徳を偲んで法要が行われます。涅槃はインドの古代語、サンスクリット語のニルヴァーナの音写語です。煩惱を滅し尽くした悟りの境地の意味でもあります。が、ご逝去することを涅槃とも言います。

宗禅寺の本堂には常日頃から『涅槃図』の掛け軸が掛けられています。『涅槃図』はお釈迦様がお亡くなりになられた時のことを描写した絵ですが、今回の土曜講座では、信州長谷観音の奥様、岡澤恭子様によってその『涅槃図』の絵解きが行われました。

絵解きは、絵の解説をただするわけではなく、絵解き師の方が情緒たっぷりに仏教絵図の因縁を紐解いて下さり、時に笑わせ時に涙させる仏教芸能文化です。鎌倉時代にはお寺に絵解き専門の僧侶がいたそうですが、その後大衆的に広まり、絵解きを生業とし全国を旅して回ったプロの絵解き師が数多くいらったそうです。娯楽の



岡澤恭子先生による涅槃図のお絵解き

多くないかつての世界では、絵解き師が村にやってくることを楽しんでいた方も多かったのでしょうか。現在、絵解き師は岡澤先生含め、全国でも指で数えるほどしか存在しておらず、大変貴重な機会をいただきました。

一般的な涅槃図は、中央に身を横たえたお釈迦様が描かれ、お弟子さんや諸仏、神々、あらゆる動物たちがお釈迦様の亡きがらを囲んで、悲しみにふけっているものが多いです。数多くの動物が描かれています。なぜか猫だけは描かれていないものが多いそうです。実は涅槃図と十二干支は非常に関係が深く、我々にとって身近な動物である猫ですが、十二干支にも猫は入っていません。理由は諸説あるようですが、非常に興味深いお話を聞きました。この他にも様々なお話を一枚の絵図からして下さり、お寺でしか聞けない絵解きとなりました。

皆様からご好評をいただきましたので、また来年二月八日に信州から羽村に来て下さることとなりました。今年聞き逃した皆様は是非とも来年をお楽しみにお待ち下さい。

土曜講座のお知らせ

檀信徒以外の皆様の御参加を大歓迎!!
お茶代三〇〇円。学生さん無料。予約不要、直接おでかけ下さい。

◆第三十二回 四月二十八日(日)十三時～十六時
中里介山忌 会場 禅林寺様羽東三十一・三十三
法要・お話・墓参

・仏教講座 「宋代の禅」 住職 高井和正

・「中里介山のお話」 宗禅寺文庫長 島田秀男先生

・講談「玉川上水物語」 菊地洋子さん

◆第三十三回 五月十八日(土)十三時～十六時
・仏教講座 住職 高井和正

・多摩のお酒について 石川酒造 石川義郎さん

・江ノ電のことあれこれ 江ノ島電鉄 前社長 深谷研二さん

◆第三十四回 六月二十二日(土)十三時～十六時
・仏教講座 住職 高井和正

・「羽村郷土博物館のすべて」 羽村郷土博物館館長 河村康博先生

・「花火の話」 細谷エンタープライズ代表 細谷圭二さん

◆第三十五回 七月二十日(土)十三時～十六時
・仏教講座 多摩川のお魚の話しを予定中

※希望の講師・テーマをお知らせ下さい。

鎌倉禅研究会開講のお知らせ

正俊閑栖和尚の主催する鎌倉での勉強会です。資料代五百円と拝観料をご負担下さい。十三時～十六時半、予約不要です。

◆第百五十二回 三月二十八日(木)於建長寺應供堂
・中世の禅宗 花園大学講師 館 隆志 先生

・臨済の思想 東京大学EMP講師・真義臨済禅宗家 小島岱山 老師

◆第百五十二回 四月十二日(木)於建長寺應供堂
・兼好法師追想 元金沢文庫長 高橋秀栄 先生

・蘭溪道隆禅師——その心と日本文化 法政大学講師 彭 丹 先生

◆第百五十三回 五月三十日(木)於建長寺應供堂
・鎌倉の禅僧と連環結制(仮題) 長谷寺観音ミュージアム主席学芸員 三浦 浩樹 先生

・禅宗と戦国時代の科学知識 東京大学史料編纂所准教授 川本 慎自 先生

◆第百五十四回 六月二十日(木)於建長寺應供堂
・何故アメリカ人は禅を選んだのか コーネル大学東アジア研究所 松原 正樹 師

・武士は何故、禅を選んだのか 東京大学教授 本郷 和人 先生

◆第百五十五回 七月十八日(木)於建長寺應供堂
・豊後の国と建長寺 蘭溪・中厳大拙定山寂而 鎌倉文化と大分・万寿寺 坪井 伸也 先生

・鎌倉文化と大分・万寿寺 大分市教育委員会参事 坪井 伸也 先生

・鎌倉文化と大分・万寿寺 大分市教育委員会参事 坪井 伸也 先生

・鎌倉文化と大分・万寿寺 大分市教育委員会参事 坪井 伸也 先生

・鎌倉文化と大分・万寿寺 大分市教育委員会参事 坪井 伸也 先生

宗禅寺毎月の活動

― お寺で新たな自分の発見を ―

- 朝粥坐禅会…… 毎月第一日曜日 朝6時～8時半 一日の始まりに坐禅。坐禅後、禅の作法でおかゆをいただきます 4/7・5/5・6/2・7/7
- 土曜坐禅会…… 毎週土曜日 子供:夕6時～7時 大人:7時半～9時半 繰り返し繰り返し深い呼吸を。イス坐禅もあります
- 彼岸早朝坐禅会…… 彼岸中(3月18日～24日)毎朝6時～7時開催。短い時間で初心者向きです。
- 土曜講座…… 毎月一回の勉強会。13時～16時 地域文化の共有と創造を目指し、地域伝統を後世に。
- 写経会…… 毎月1日、11日、21日、1時～3時 般若心経の写経をしています。支度、片付けは全員で。
- 御詠歌…… 毎月第1・3火曜日 1時半～3時 指導:高井淑子
- 手打うどん教室…… 現在2クラス開講中。月一回。講師:島田辰夫先生
- 木彫教室…… 毎月第1・第3土曜日 13時～16時まで 講師:新井達矢先生 場所:宗禅寺禅センター 仏像や能面を自分で彫ってみませんか? 月謝5000円(道具、材料費は要別途)
- 俳句教室…… 毎月1回、適宜。問い合わせ先:中野つたえ ☎554-2444
- 尺八吹禅の会…… 毎月第1、第3月曜 夜7時半～9時頃 坐禅15分、練習60分、問い合わせ:坂井陵童 ☎554-3273
- 介護予防体操…… 毎週金曜日 14時～16時 問い合わせ:羽村市役所 ☎555-1111 内線178
- 女性サンガの会・薬師講・寺子屋委員会・護持会 ——活動中です——
- 宗禅寺禅センターをお使い下さい。